

# 安全データシート

## 1. 化学品及び会社情報

化学品の名称(製品コード) : ラスペネ (記号: RP-L・品番 A120)  
 会社名称 : 株式会社 和光ケミカル  
 住所 : 神奈川県小田原市南鴨宮 1-1-1  
 電話番号 : 0465-48-2211(代)  
 FAX 番号 : 0465-49-1951  
 緊急連絡電話番号 : 技術部(電話: 0465-48-8114)  
 推奨用途及び使用上の制限 : ●各種ボルト、ナットのゆるめと防錆。●印刷、製紙、紡績機等の摺動面潤滑。●アクセルワイヤー等の潤滑。●各種部品の潤滑と防錆、及び撥水【業務用】  
 作成日 : 1999年11月12日 (2022年4月1日 改訂第14版)  
 整理番号 : A120-J14

## 2. 危険有害性の要約

化学品のGHS分類 エアゾール 区分1  
 皮膚腐食性/刺激性 区分2  
 特定標的臓器毒性(単回ばく露) 区分3(呼吸器刺激、麻酔作用)  
 ※記載のないものは区分に該当しない、または分類できない

絵表示又はシンボル



注意喚起語 危険

危険有害性情報

- ・H222: 極めて可燃性の高いエアゾール
- ・H229: 高圧容器: 熱すると破裂のおそれ
- ・H315: 皮膚刺激
- ・H335: 呼吸器への刺激のおそれ
- ・H336: 眠気又はめまいのおそれ

注意書き

【安全対策】

- ・P210: 熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。
- ・P211: 裸火又は他の着火源に噴霧しないこと。
- ・P251: 使用後を含め、穴を開けたり燃やしたりしないこと。
- ・P261: 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
- ・P264: 取扱い後は手を良く洗うこと。
- ・P271: 屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。
- ・P280: 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

【応急措置】

- ・P302+P352: 皮膚に付着した場合: 多量の水と石けんで洗うこと。
- ・P304+P340: 吸入した場合は空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- ・P312: 気分が悪いときは医師に連絡すること。
- ・P332+P313: 皮膚刺激が生じた場合: 医師の診察/手当てを受けること。
- ・P362+P364: 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

【保管】

- ・P403+P235: 換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。
- ・P405: 施錠して保管すること。
- ・P410+P412: 日光から遮断し、50℃以上の温度にばく露しないこと。

【廃棄】

- ・P501: 内容物/容器を国際条約や国/都道府県/市町村の規則に従い廃棄すること。

## 3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 : 混合物

- ・流動パラフィン 15~25 wt%
- ・合成炭化水素系溶剤 企業秘密の為記載できない
- ・潤滑油添加剤 企業秘密の為記載できない
- ・噴射剤(LPG) 20~30 wt%

危険有害成分及び含有率

化合物名	CAS-No.	官報公示整理番号(化審法)	労働安全衛生法(政令No.等)	PRTR法	含有率(wt.%)
流動パラフィン(鉱油)	8042-47-5	(2)-10 (9)-1682	168	非該当	15~25
灯油	8008-20-6	(9)-1702	380	非該当	0.1~0.3
ブタン(全異性体)	106-97-8 75-28-5	(2)-4	482	非該当	20~30

4. 応急措置	眼に入った場合	: 直ちに大量の清浄な流水で15分以上洗う。まぶたの裏まで完全に洗うこと。容易に外せるならコンタクトレンズなどは外す。痛みが残るときは直ちに医師の診察を受けること。
	皮膚に付着した場合	: 付着物を布にて素早く拭き取る。大量の水及び石けんまたは皮膚用の洗剤を使用して十分に洗い落とす。溶剤、シンナーは使用しないこと。外観に変化が見られたり痛みがある場合は、医師の診察を受ける。
	吸入した場合	: 蒸気、ガス等を大量に吸い込んだ場合には、直ちに空気の新鮮な場所に移し、暖かく安静にする。呼吸が不規則か、止まっている場合には人工呼吸を行う。嘔吐物は飲み込ませない。直ちに医師の手当てを受けること。
	飲み込んだ場合	: 誤って飲み込んだ場合には安静にして直ちに医師の診察を受ける。無理に吐かせないこと。また嘔吐物は飲み込ませないこと。
5. 火災時の措置	消火方法	: 火元へのガス燃焼源を断ち、消火剤を使用して消火する。 : 注水は燃焼を拡大することがあるので禁止する。 : 水スプレーで周辺のタンク、建物を冷却し、延焼を防止する。 : 水スプレーは発生するガスを拡散したり、消火作業に従事している人を保護するものにも使用する。 : 発生するガスや燃焼生成物の吸入を抑えるために、消火作業は風上から行い、密封空間や通風の悪い場所など、必要に応じて吸気式呼吸器を着用する。
	消火剤	: 霧状の強化液、泡、粉末又は炭酸ガスが有効である。 消火に棒状の水を用いてはならない。
6. 漏出時の措置		: 作業の際は適切な保護具(手袋、保護マスク、エプロン、ゴーグル)等を着用する。 : 着火した場合に備えて、適切な消火器を準備する。 : 付近の着火源、高温体及び可燃物を取り除く。 : 流出物は、火花が発生しないように、プラスチック製の用具を用いて密閉できる容器に回収し、安全な場所に移す。 : 単独での回収が困難な場合は、乾霧状土、その他不燃性のものに吸収させて回収する。 : 付着物、廃棄物等は、関係法規に基づいて処置をする事。 : 河川等へ排出され、環境への影響を起こさないように注意する。
7. 取扱い及び保管上の注意	共通事項	: 指定数量以上の量を取り扱う場合には法で定められた基準に満足する製造所、貯蔵所、取扱所で行う。
	取扱い上の注意	: 室内で取扱いを行う場合は、十分な換気を行う。 : 容器を転倒させたり、衝撃を与える等の粗暴な取扱いはしない。 : 一度栓を開けた容器は必ず密栓をしておく事。 : 炎、火花又は高温体との接触を避けるとともに、みだりに蒸気を発生させない。 : 常温で取り扱うものとし、その際、水分、きょう雑物の混入に注意すること。 : 石油製品から発生した蒸気は空気より重いので滞留しやすい。そのため換気及び火気への注意が必要である。 : 危険物が残存している機械設備などを修理または加工する場合は、安全な場所で危険物を完全に除去してから行うこと。
	保管上の注意	: 冷暗所で換気の良い場所に保管する。 : 危険物の表示をして保管する。 : 類の異なる危険物は同一の貯蔵所において貯蔵しないこと。 : 保管場所で使用する電気器具は防爆構造とし、器具類は接地する。

8. ばく露防止及び保護措置

化合物名	CAS-No.	管理濃度	ACGIH TLVs		日本産業衛生学会 TLV
			TWA	STEL	
流動パラフィン(鉱油)	8042-47-5	—	5mg/m <sup>3</sup> (鉱油ミストとして)	—	3mg/m <sup>3</sup> (鉱油ミストとして)
プロパン	74-98-6	—	1000 ppm	—	—
n-ブタン	106-97-8	—	800 ppm	—	500 ppm
イソブタン	75-28-5	—	1000 ppm	—	500 ppm

設備対策 : 屋内作業場は、排気装置を設置する。  
 取り扱い場所の近辺に、洗眼・身体洗浄のための設備を設ける。  
 保護具 : 必要に応じて保護眼鏡、耐油性保護手袋、保護衣、呼吸用保護具等を使用する。

9. 物理的及び化学的性質

	原液	噴射剤(LPG)		
		プロパン	n-ブタン	イソブタン
状態	液体・乾燥後は軽質油膜	ガス状(大気圧)、液状(容器内)		
外観	褐色	無色透明	無色透明	無色透明
臭い	わずかなエーテル臭	無臭	無臭	無臭
融点	データなし	-190℃	-138℃	-159℃
沸点	データなし	-42℃	-0.5℃	-11.7℃
引火点	80℃~90℃	-104℃	-60℃	<-56℃
発火点	280℃以上	450℃	365℃	460℃
爆発範囲	1.0~7.0%(推定)	2.1~9.5%	1.8~8.4%	1.8~8.4%
蒸気圧	データなし	1.275MPa(40℃)	0.278MPa(40℃)	0.427MPa(40℃)
蒸気密度	データなし	1.6(空気=1)	2.1(空気=1)	2.1(空気=1)
密度	0.83 g/cm <sup>3</sup>	0.5(水=1)	0.6(水=1)	0.6(水=1)
溶解性(水)	不溶	0.007g/100mL	0.006g/100mL	不溶
オクタノール/水分配系数	データなし	logPow=2.36	logPow=2.89	logPow=2.80

10. 安定性及び反応性

安定性 : 通常の取り扱いでは安定  
 可燃性 : あり  
 自然発火性 : なし  
 水との反応 : なし  
 酸化性 : なし  
 自己反応性・爆発性 : なし

11. 有害性情報

製品としてのデータはない。成分ごとのデータおよびGHS区分より判定した。  
 記載無きものはGHS分類でカットオフ値以下のものか、知見なし、あるいはデータなし。  
 急性毒性(経口) : 成分および組成より区分に該当しないと判断した。  
 LD50... >5g/kg (ラット経口)  
 急性毒性(吸入) : 成分および組成より区分に該当しないと判断した。  
 皮膚腐食性/刺激性 : 成分及び組成より区分2と判断した。  
 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 : 現在のところ有用なデータなし。  
 呼吸器感受性 : 現在のところ有用なデータなし。  
 皮膚感受性 : 現在のところ有用なデータなし。  
 生殖細胞変異原性 : 現在のところ有用なデータなし。  
 発がん性 : 成分および組成より区分に該当しないと判断した。  
 <<鉱油>> OSHA・IARC-group3(発ガン性について分類できない)  
 EU・発ガン性物質としての分類は適用させる必要はない。  
 生殖毒性 : 現在のところ有用なデータなし。  
 特定標的臓器毒性(単回ばく露) : 成分および組成より区分3(呼吸器刺激、麻酔作用)と判断した。  
 吸引により、呼吸器への刺激性、および眠気やめまいを起こすと推測される。  
 特定標的臓器毒性(反復ばく露) : 現在のところ有用なデータなし。  
 誤えん有害性 : 成分および組成より区分に該当しないと判断した。

12. 環境影響情報

製品としてのデータはない。成分ごとのデータおよびGHS区分より判定した。  
 記載無きものはGHS分類でカットオフ値以下のものか、知見なし、あるいはデータなし。

